

令和7年度 第3回 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日時 令和7年11月27日（木）
10時00分～12時00分
場所 氷上住民センター 大会議室

出席者（敬称略・順不同）

- 委員：杉岡秀紀会長、中川フェテレウォルク副会長、八尾由江委員、前田進委員、森田久瑠美委員、大木玲子委員、田路正崇委員、古西純委員
※欠席：藤本理恵委員、藤井叙人委員、土田咲穂委員、石原和浩委員
○丹波市 細見正敏副市長
(事務局) 清水ふるさと創造部長、足立総合政策課長、荻野総合政策課副課長兼情報政策係長、垣内総合政策課政策係長、村上総合政策課政策係主査

1 開 会

2 副市長あいさつ

3 協議事項

（1）地域未来戦略本部の設置について

委員：国の補正予算が17兆円で編成されており、様々な対策が組み込まれている。地域未来戦略本部では、石破政権の取組も継承されつつ、経済に重きを置いた議論になることが想定される。地方の人口減少を止めることを横目にみながら、第3期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略（以下「総合戦略」という）について、今後の議論を深めたい。

4 協議事項

（1）第3期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略（案）について

委員：参考資料の補足をさせていただきたい。縮充を目指す佐用町の総合計画策定に係る資料であり、3ページには、人口縮小の状況について、記載されている。数字だけを見ると縮小するものの、住民の満足度や関係性の向上など、縮充をとおして押し出している。ポイントは、「楽しくつながる」ことや「やってみたいが叶う」などをポジティブな指標を活用していること。人口を指標にすると、右肩下がりになるため、まちとして共通の価値観の醸成を目指している。丹波市も合併市として、これまでから一体感に課題があった。佐用町では、縮充を掲げた新たな町長が圧勝しており、総合戦略

を考えるエッセンスとしては重要である。京丹後市では、全国でプロを目指す女子サッカー選手の移住が増えており、普段は地域で働いている。リーグ昇格し、家族やファンも訪れ、まちの活性化にも寄与している。丹波市も女子野球の聖地であり、総合戦略を検討するうえでは、スポーツや芸術も必要な要素である。

委員：分かりやすい資料になっている。若い女性に帰ってきてもらうためには、仕事や住居、コミュニティづくりを柱にする必要がある。リモートワークなどの働き方や住まい、コミュニティづくりへの支援が重要である。

委員：総合戦略（案）について、女性に特化するにしても、文字だけでは伝わりづらいため、イラストなど見せ方を検討してほしい。また、総合戦略（案）には仕事と住居に関しては触ることはできるが、地域づくりに対して、地域と移住者を仲介する人材など、もう少し踏み込んで記載してほしい。

委員：今回の総合戦略（案）について、県民局の若い女性職員と意見交換を行った。そのなかで、ターゲット2のように転職と結婚が転機となり得るとの意見があった。便利さや地域の受入体制などを整える必要がある。移住や結婚を含め、京丹後市のようにスポーツといったまちとしての色も必要である。また、若い女性職員からは、丹波市は人が良いとの意見もあった。転職にあたり、人間関係で悩んでいる人や夢やぶれた人などもおられ、人の温かさを押し出すことも重要である。

委員：まちの便利さについて、書かない窓口などの行政手続きのDX化やマイナンバーカードを活用した引越手続きに加え、市役所へ行かなくても手続きが進むことが可視化されると、移住に対するハードルが下がる。丹波市の取組はどうか。

事務局：書かない窓口は、令和6年度から取り組んでいる。窓口による市民利用と行政の手続き、双方のDXを一気通貫で進める必要がある。取組を始めたばかりで、10～20の手続きから進めている。証明書等の発行手続きは、コンビニでも可能で、窓口へ行かなくても入手できる状態にある。

委員：8時30分から17時15分までの開庁時間の場合、職員のサービス残業が発生するため、行政としての縮充も必要である。また、人間関係などに疲れた人の意見があった。ある方がふるさとについて聞かれたときに都会の喧騒しか思いつかず、地域おこし協力隊として地方へ移住した事案があるなど、丹波市が誇る自然環境に響く人もいる。

委員：ゴールは分かりやすく、表現されている。丹波市らしさを追求する場合、佐用町のように誰もが目指すまちのあり方を理解する表現が必要である。10年前に人口減少に伴う鳥獣被害の拡大について意見したもの、あまり取り扱っていただけなかったが、大きな問題に発展している。総合戦略では、2060年を見据えた施策を検討してほしい。

委員：分かりやすさという観点では、総合戦略におけるサブメッセージやスローガンなど、丹波市らしさや具体的な取組が必要かもしれない。福知山市でも熊の問題には苦慮している。東北地方ではガバメントハンターを募集されており、丹波市でも女性の猟師

などを募集すれば、とがった施策になる。丹波市の取組状況はどうか。

事務局：熊は例年より多く出没しているが、全国的な出没事案と比較しても、さほど大きな問題にはなっていない。

委員：1月の推進委員会では、6ページのゴールが実現した際のまちの姿やゴールとした意図について、言語化や図示化してほしい。また、人口は外国人を含めた数値でよいのか確認したい。外国人の人口だけが唯一右肩上がりであるため、長期的な視点としての影響も考えられる。2060年以降の人口動態が分かれれば、今後の取組方針が明確になる。3点目に、丹波市らしさやならではの言語化について、委員会で議論したい。例えば、移住に関わる立場として、意見を述べるのであれば、丹波市の生活は都市部からは羨ましがられる。都市部では、自分が本当にここにいていいのか疑問に思っている人が多い。丹波市は、オンラインを通じて働く環境や関西経済圏に近い地の利もあり、便利さを妥協する必要がない地域である。加えて、食や個人で活用できる有効なスペース、地域と地域、地域と移住者がコミュニティとしてしっかりとつながることができる人の好さなど良質なモノが近くにあり、役割や居場所を享受できる。このあたりが丹波市らしい価値として差別化できるのではないか。

委員：外国人に関して、今後の見通しなど、記載をしてはどうか。また、2060年より先の動向も分かるのであれば、資料として調製してはどうか。

事務局：今後の見通しなど、内容は確認のうえ、検討したい。参考までに 10月末現在で、市民は 59,293 人でそのうち、外国人 1,510 人となり、毎月増加傾向にある

委員：丹波市らしさとは何か。丹波篠山市になくて、丹波市にあるものが言語化できないと移住者にとって魅力に映らない。丹波市の便利さについて、インフラや通信、交通も整いつつあり、衣食住が整っている。綾部市では、衣食住ではなく、医食住で表現している。都会の人に響くワンフレーズを検討してほしい。

委員：皆さんの話を聞く中で、丹波市らしさが何なのか考えている。伝統的な祭りは大切な習慣として、皆の助け合いや支え合いから成り立ってきた。前回の推進委員会でも、神輿の担ぎ手がなく、住民ではなく、関係性を有する人が担っていることについて発言させていただいた。昔は行事をとおして、コミュニティが育ち、住民の名前や人となりを知る機会となっていた。今は行事をとおして、人が育っているか、また未来を担う人達にとって魅力的か疑問である。そう考えると、発作的に丹波市に戻るのではなく、長い年月をかけてやっぱり丹波市に戻りたいと思えることが重要である。一方で、神事では性別が重要視される傾向にあり、長い目でどうあるべきか検討する必要がある。子育てに関して、公共施設は月曜日が休みとなることが多い。核家族や知り合いが少ない移住者の孤立につながる可能性もある。全ての休館日を月曜日に定めることは、閉鎖的である。家族があれば頼ることもできるが、そうでない人もおられる。漏れ落ちがないよう、民間事業者も活用しながら、補完するための起業があつてもよい。その場合、家賃などがネックとなり、行政として支援ができないか。うまく回つ

ていけば、みんなでまちづくりをしている実感にもつながる。

委員：休館日は、行政の前例踏襲の最たる例である。特に雨が降ると行く場所がない。福知山市のフクレルは休館日を変更して、上手くいきつつある事例である。丹波市では、恐竜博物館や美術館も月曜日が休館日となっているが、決して法律で定められている休館日ではない。例えば、美容室も月曜日が定休日であり、これも時代の名残である。美容師自身も休日が有効に活用できないなど困っている。これらは、少しの工夫で改善できる事案であり、金曜日を休みにすれば、連続した休暇にもつながる。庁内で議論できないか。

事務局：ご指摘の件は、無意識の思いこみから始まっている。職員の中でも発想の転換を行い、柔軟に対応する必要がある。5ページのグラフは男性と女性の色を入れ替えている。こういう部分から、職員も変わらないといけない。施策を誰の視点で検討するべきか。伝わる見せ方も重要で、抽象化している部分をイラストや言語化することで注目してもらえるようになるため、次回の委員会でご意見をいただきたい。

委員：休館日の変更にあたり、条例改正するための根拠が必要であるものの、市民の声などを確認しつつ、施設毎に検討してほしい。丹波市は、ふるさと住民制度を全国に先駆けて進めている。若い人も多く、ふるさと住民に聞くことも一つの手段である。なお、先ほど議論があった丹波らしさについて、少し検討しており、参考までに紹介したい「離れても気になるまち、近づいたら好きになるまち」。方言などを交えて検討してほしい。

委員：図書館でこたつを使用したイベントが実施される。市民の意見を聞いた結果であり、形になってうれしく思っている。総合戦略を各計画とも連携させつつ、重層的に進めてほしい。ふるさと住民に確認するのであれば、丹波市のあるあるなど、良いことも悪いことも聞いてほしい。市民では気づかないこともある。

委員：図書館は6か所あり、休館日は変更することは可能である。いつ行っても図書館が開館しているまちは魅力になる。職員や組合対応を含めて難しいことは承知しているが、検討してほしい。

事務局：近々、政策会議が開催されるため、おつなぎさせていただきたい。

委員：自治会からの立場から意見させていただく。遠阪地域ではミラインの活動をとおして、縮充の視点で生活の困りごとやイベントの開催、女性がどうすれば帰ってくるか協議した。しかし、ミラインの活動が終了すると、積み上げた行動も終了してしまう。国・地方自治体・地域のそれぞれに役割があるなかで、地域として残るものが少なく、結局のところ、参加者が少なかった。若い人は、イベントを見に来られることはあったものの、地域が望む参画までには至らなかった。自治会も努力しているが、これまでの考え方若く人の中では希薄になっており、昔のように役割だけでは動かず、自発的に楽しくならないと参画しない。行政として、個々の部分まで踏み込んだ計画にはできないことは承知している。地域が若い人に自発的に取組んでもらえる方策を考

える必要がある。

委員：地域でこれまで当たり前に実施してきた活動が、価値観の相違により、活動が難しくなっていることを浮き彫りにしたことがミラインの成果である。自治会の住民だけではなく、準住民制度のように住んでいない人が関われる体制が必要である。そのためには、自治会側もライトな付き合いを許容する姿勢が必要である。単体の自治会としていかに持続可能できるか、楽しく感じる人をどう受け入れるか、可視化するか検討が必要である。

委員：移住者として、地域での集会の回数や祭りの時期など、地域に関する情報が全く分からず、また情報を得る手段がない。移住者にとって、地域の人と関わることも楽しみの一つであり、ただ知らないことだけが欠点である。どうやったら伝わるか、若い女性が地域の祭りにパートナーと参画するなど、誰でも参加していいという情報を発信することから始めるべきで、SNSが効果的である。また、人口減少や寒い、車ないと生活できないなど、丹波らしさをマイナス面で取り上げがちである。実際はそんなことはなく、良い空き家や使用できる畠があり、積雪も美しい。これらを見られることに価値があり、不便であるからこそ良い面もある。マイナスの言葉ではなく、プラスの言葉で伝えてほしい。市民が楽しく生活していることを言葉だけではなく、動画などで伝える工夫が必要で、情報発信に長けた方としっかりと連携してほしい。

委員：移住相談で自治会に関する質問はあるのか。

委員：移住相談でも質問はあり、自治会と面会するマッチングを行っており、行事や自治会との関わり方を相談するなど、ギャップの解消に努めている。自治会側も変化が起きており、移住者が何を分かっていないかを知る機会になった。自治会のうち、10分の1くらいは、準自治会員制度があり、多様な暮らし方につながっている。

委員：まちのコンシェルジュとしての取組が実施されており、確認できて良かった。転職支援の際に、この機能があれば心構えもできる。夫が地元で、女性が市外出身の方の場合など、ちぐはぐなケースは多い。このようなコンシェルジュ機能は必要である。

委員：今回のターゲットは若い女性になるが、高齢者への対応のことなどもある。市の計画は「丹の里総合戦略」だけではないという認識で合っているか。

事務局：まちの活力の維持にあたっては、高齢者を含めて検討することになるが、まちの持続性という観点では、若い女性をしっかりと補強しないと確保できないため、重点を若い女性に置いている。関係人口を含め、担い手を掘り起こしたい。

委員：総合計画があるため、総合戦略は人口対策の側面が強い。なお、8ページにキャリアアップと記載されているが、キャリア自体にアップやダウンという概念はないため、削除されたい。

【まとめ】

- ・サブタイトルを含め、丹波市らしさが分かる表現やイラストについて工夫すること。
- ・外国人の状況について、記載すること。

- ・子ども達が将来を見通せるよう、2060年より先の人口の推移が示せるか検討すること。
- ・持続可能な地域のコミュニティの形成に向けて、準住民として関われる取組を広めること。
- ・公共施設の休館日のあり方について、検討すること。
- ・SNSの活用について、行政だけではなく、外部の長けた人材と連携し、発信すること。
その場合、動画やイラストなど分かりやすく伝わるよう検討すること。
- ・関係人口について、国でも住まないことを前提に施策を展開することになる。1人あたり、2～3つくらいの自治体にふるさと住民制度を登録することも想定される。丹波市でも適切な表現を含め、整理してほしい。(関係人口とふるさと住民のどちらかの表現に統一するなど)

事務局：外国人の人口について、人口ビジョンに記載している。今後、補記したい。外国人だけを見ることは難しいため、一体的に住む方として捉えている。

5 次回推進委員会開催日程

第4回丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日 時：令和8年1月頃予定

場 所：未定

6 閉 会